

JPNIC 活動報告

Activity Report

活動カレンダー (2010年3月～2010年6月)

■3月

4日	HOSTING-PRO 2010 [後援] (東京、国際ファッションセンター KFC Hall)
12日	第40回通常総会 (東京、東京ステーションコンファレンス) 第77回臨時理事会 (東京、東京ステーションコンファレンス)
19日	IPアドレス管理指定事業者定例説明会 (東京、JPNIC会議室)
25日	第25回IPアドレス管理指定事業者連絡会 (東京、日本教育会館)

■4月

20日	第27回ICANN報告会 (東京、富士ソフトアキバプラザ)
-----	-------------------------------

■5月

14日	第78回通常理事会 (東京、JPNIC会議室)
21日	IPアドレス管理指定事業者定例説明会 (東京、JPNIC会議室)
25日	第26回IPアドレス管理指定事業者連絡会 (大阪、御堂筋MIDビル)
26日	第26回IPアドレス管理指定事業者連絡会 (東京、日本教育会館)
31日	第8回迷惑メールカンファレンス [後援] (東京、コクヨホール)

■6月

7日～11日	Interop Tokyo 2010 [後援] (千葉、幕張メッセ)
18日	第41回通常総会 (東京、ホテルメトロポリタンエドモント) 第79回臨時理事会 (東京、ホテルメトロポリタンエドモント)
29日	第18回JPNICオープンポリシーミーティング (東京、ベルサール九段)

■ JPNICオープンポリシーミーティングショーケース3開催報告

2010年1月20日(水)に、新潟の新潟市民プラザにて「JPNICオープンポリシーミーティング(以下「JPOPM」)ショーケース3」を開催いたしました。「JPOPM ショーケース」は、特にオペレーターの皆様、インターネットの運用にも深く関係するアドレスポリシーの最新動向について理解を深めていただくことを目的としており、前回のショーケース2^{*1}と同じように、JANOGミーティングの前日に、同会場をお借りして実施しました。参加者数は、約30名でした。

今回、JANOGでの発表のために来日されていた、APNIC Director GeneralのPaul Wilson氏にもご講演をいただきました。また、プログラム全体として、IPv4アドレス、AS番号といったインターネット資源の「枯渇」に関連した、最近のアドレスポリシーのホットピックを中心に構成しました。

プログラムは、以下の通りでした。

- ・ Paul Wilson氏ご講演
- ・ IPv4アドレスの移転について
- ・ AS番号に関する動向
- ・ IPv6アドレスに関する動向
- ・ その他の国内で施行されるポリシー紹介

Wilson氏からは、APNICにおけるポリシー制定プロセスの紹介と、先日成立したIPv4アドレス移転ポリシーについてのAPNICにおける実装の詳細に関する紹介、2010年のAPNIC活動プランの紹介がありました。また、講演の最後に、IPv4アドレスの在庫が残り10%を切った際、NRO(Number Resource Organization)が実施するIPv4アドレス在庫枯渇キャンペーンについてお話いただきました。現時点で、在庫は既に10%を切っており、以下のようなプレスリリースも出されています。

Less than 10% of IPv4 Addresses Remain Unallocated, says Number Resource Organization
<http://www.nro.net/media/less-than-10-percent-ipv4-addresses-remain-unallocated.html>

「IPv4アドレスの移転について」では、現在JPNICでも実装検討中となっているIPv4アドレス移転のポリシーについて、制定の背景、制定までの経緯、制定されるポリシーの内容、国外の状況について紹介しました。

「AS番号に関する動向」では、既に2バイトAS番号の在庫枯渇に伴って配布が始まっている4バイトAS番号について、ポリシーの状況、機器の対応状況等の技術的な問題、およびJPNICでのポリシー対応状況の報告がありました。現在ポリシー的には、AS番号は2バイト、4バイトの区別なく払い出されることになっていますが、実際のところ4バイトAS番号の分配を受けた場合に、まだ上流が4バイトASに対応したオペレーションを開始していない、ルータが4バイトAS対応になっていないため設定等が困難といった、運用面に不安が残っているのが現状です。この状況から、配布ポリシー再変更の是非等について、意見募集がありました。

その他、今後予定されている、IPv6アドレス申請手続きの簡素化、WHOIS登録ルールの変更、追加割り振り申請時における歴史的PIアドレスの利用状況確認といったポリシーの実装について、報告がありました。

なお、当日のプログラムと発表資料は、下記URLに掲載していますので、ご参照ください。

当日のプログラムと発表資料
<http://venus.gr.jp/opf-jp/events/showcase3/>

(ポリシーワーキンググループ/
NTT情報流通プラットフォーム研究所 藤崎智宏)

^{*1}JPNIC News & Views vol.619 JPOPMショーケース・臨時JPOPMレポート
<http://www.nic.ad.jp/ja/mailmagazine/backnumber/2009/vol619.html>

■ 「日本」のレジストリ選定に関する選定基準案意見募集について

日本インターネットドメイン名協議会(以下、ドメイン名協議会)では、2010年2月23日(火)に、「日本」のレジストリの選定に関する選定基準の案を公開し、公開から3月19日(金)まで、その案に対する意見募集が行われました。寄せられた意見を元に選定基準の最終検討が行われ、6月2日(水)に開催されるドメイン名協議会の理事会で諮られ、決定されました。その後、6月4日(金)に、選定基準と公募要領が公開されましたが、公募要領によると、6月16日(水)に説明会を実施した後、8月16日(月)まで応募申請を受け付けるとされています(詳しくはドメイン名協議会Webページをご覧ください)。

選定基準及び公募要領の公表について
<http://jidnc.jp/?p=533>

本稿では、このレジストリ選定基準策定までの経緯を振り返ります。

ドメイン名協議会ではこの選定基準案の策定にあたって、具体的な検討を行う作業部会を設置しました。作業部会は、技術検討グループと経営基盤等検討グループの二つからなります。経営基盤等検討グループは、幹事会のメンバーを基本として構成され、技術検討グループ

は、幹事団体から推された専門家4人によって構成されました。

検討は、2009年7月の情報通信審議会答申にて示された8項目

- 1) 技術的能力
- 2) 経営基盤
- 3) 事業計画
- 4) 事業運営の公正性・透明性
- 5) コンプライアンス体制
- 6) ドメイン名登録者等外部からの苦情・問い合わせ、紛争などへの対応、情報セキュリティの管理体制
- 7) 国際的な役割の遂行
- 8) 国内のインターネットの発展への貢献

の精査から着手し、事業者選考の類似例のスタディ、ドキュメント群の通読などを行いました。

こうした検討を経て、結果的には、技術的能力(1)、経営基盤と事業計画(2,3)、それ以外(4~8)の3群が同じくらいの重みとなるようなバランスで項目設定がなされています。詳しくは、ドメイン名協議会Webページをご覧ください。

選定基準(案)に対する意見募集
<http://jidnc.jp/?p=369>

■ 第27回ICANN報告会レポート

2010年3月7日から3月12日まで、ケニアの首都ナイロビで第37回ICANN会議が開催され、本会議の報告会を2010年4月20日(火)に富士ソフトアキバプラザ(東京都千代田区)にて、JPNICと財団法人インターネット協会(IAJapan)の共催にて開催しました。本稿では、報告会のレポートを中心に、このナイロビ会議の概要をご報告します。

前回のソウル会議でIDN ccTLDのファストトラックプロセスは承認されたため、会合の焦点は、新gTLDに関する議論に向けられました。したがって、本報告会においても前回に引き続き新gTLDに関連する発表が多く、新gTLDについての動きを掘り下げてお伝えする機会となったのではないかと思います。

◆はじめに

今回の開催地ナイロビは、外務省が発している海外安全情報によると、4段階ある危険度の1段階目である、「十分注意してください」とされていました。これは、文字通り注意深い行動が呼びかけられるだけのレベルですが、ICANNでは米国国務省から、過激派によるテロ計画の可能性があり、まさにナイロビ会議の会場である、Kenyatta International Conference Centreが標的とされているとする情報を得たとして、2月中

また、このドメイン名協議会による選定基準に対する意見公募と並行して、JPNICでも独自に「日本」に関して、選定基準だけに留まらない意見を広く募集いたしました。

JPNICによる、IDN ccTLD「日本」に関するご意見募集について
<http://www.nic.ad.jp/ja/topics/2010/20100311-01.html>

皆様からお寄せいただいたご意見については、JPNIC Webサイトですべて公開しております。

「日本」に寄せられたご意見
<http://www.nic.ad.jp/ja/dom/opinion/comment-dotnippon.html>

なお補足ですが、「日本」のレジストリ選定に関する今後のスケジュールに関しては、以下のURLに、ドメイン名協議会理事会において承認された活動日程が示されています。この日程に示される通り、選定基準に従って実際にレジストリを選定する選定委員会に関しても、委員の選任が完了し、選考の準備作業が進んでいます。

<http://jidnc.jp/wp-content/uploads/2010/02/B3-schedule.pdf>
(JPNIC インターネット推進部 前村昌紀)

旬から頻繁にセキュリティ情報のアップデートを提供していました。

ICANNはこの状況の中で、現地当局やホストとの協力の下、会場と推奨ホテル、その間の交通手段などでセキュリティ確保対策を敷いた上で、ナイロビ会議を予定通り開催することを決めました。それでも、セキュリティ懸念から、渡航を自粛した参加者も少なくありませんでした。実際、日本からの参加者は10人に満たず、リモート参加で登壇する発表者も目立ちました。

しかしながら、理事をはじめとして、登壇や発言によってよく知られた参加者は、概ね現地入りしていたような印象でした。また、一度だけ市中を歩いてみたときも、東アフリカで最も発展した国の首都ということで、街行く人々はビジネスマンが大半で、事前に提供されていた情報から想像されるような脅威を感じることはありませんでした。

◆新gTLDに関する議論

新gTLDに関しては、前回2009年10月のソウル会議直前にDraft Applicant Guidebook(以下DAG)第3版が発表され、これに基づいた議論が続いています。本会議では、新gTLDプログラムに関して

残課題とされていた、商標権保護のための仕組みについて議論が行われました。また、それ以外の課題としては、IDNにおける3文字制限の問題が検討されました。IDN異体字については、2月にパブリックコメント募集がかかった状態でナイロビ会議を迎え、議論が持たれました。このうち、IDNの3文字制限に関して、2文字のIDN TLDを条件付きで認める方向の緩和策が決議されるとともに、その他の課題についても、4月初頭のパブリックコメント募集終了を待って、DAG第4版に盛り込むとされていました。

DAG第4版は2010年6月に開催されたブリュッセル会議前に公表されましたが、RPMを中心とするさまざまな課題が解決したと言えるのか、注視が必要な状況です。



以降、当日のプログラムに沿って、報告会の内容をご紹介します。

◆開会挨拶

報告会の開始に先立ち、IAJapanの高橋副理事長より開会のご挨拶をいただきました。開始してから9年が経過したICANN報告会の意義および今後の課題について主にお話しいただきました。

◆ICANNナイロビ会議概要報告

JPNIC理事の丸山直昌より、ICANNナイロビ会議の全体概要について報告しました。特に新gTLD募集におけるEoI (Expression of Interest; 関心表明) について、パブリックフォーラムでの議論、および理事会決議の概要について網羅しました。

EoIとは、新gTLD申請の前段階として、申請文字列および申請者に関する情報を申請者より提出させ、参加した人のみが新gTLDの本申請に参加できるという、事前調整の仕組みです。需要をあらかじめ洗い出すことで、新gTLDプログラム全体の実施計画策定に寄与するというメリットが掲げられていました。前回ソウル会議の理事会で、事務局に検討を指示する決議がなされ、以降パブリックコメント募集も含めて検討中でしたが、今回提案自体が取り下げられることになりました。



■ 丸山直昌より、ナイロビ会議の概要を報告いたしました。

◆ccNSO関連報告

株式会社日本レジストリサービスの堀田博文氏からは、国コードドメイン名支持組織(ccNSO)会合での議論のうち、IDN ccTLDの動向、ccTLDマーケティング、DNS-CERT、ワイルドカードの4点について、主にご報告いただきました。ccTLDマーケティングは、新gTLD導入を控えてccTLDの意義を伝えるためのもので、欧州での事例およびJPにおけるドメイン名種別毎の位置付け調査結果について紹介されました。

◆GNSO評議会報告

GNSO Councilメンバー／東京大学のRafik Dammak (ラフィク・ダンマク) 氏からは、GNSO評議会について、中でも新gTLD申請者サポート作業部会(WG)を中心にご報告いただきました。同WGは、ICANNナイロビ会議での理事会にて設立が決議され、その後GNSO評議会にて設立を支持する決議がなされ、Rafik氏がGNSOのリエゾンとして選ばれました。同WGのICANN報告会開催時点での活動状況はメンバー募集中とのことで、活動の方向性は申請費用・料金について定めるのではなく、申請者の支援に専念するというものです。

◆バックエンド事業者から見た新gTLD関連トピック

GMODメインレジストリ株式会社の大東洋克氏より、EoIをはじめとする新gTLD関連トピックについてお話しいただきました。

大東氏によると、EoIの採用が理事会決議で見送られた理由は、新gTLDガイドブック案作成と並行してEoIを実施することで新gTLDの導入を早めようという提案側の意図だったにもかかわらず、スタッフの労力が割かれることなどで、かえって新gTLDの導入が遅れるためということでした。



■ 大東氏からはEoIを中心に新gTLD関連のトピックをお話しいただきました。

◆レジストリ/レジストラ垂直統合

株式会社アーバンブレインのJacob Williams (ジェイコブ・ウィリアムス) 氏より、レジストリとレジストラの垂直統合 (Vertical Integration; VI) についてお話しいただきました。

VIとは、新gTLD募集にあたり、レジストリがレジストラを運営するこ

と、あるいはその逆について認めるかどうかということです。顧客データを保護するために慎重な方針にとどめるという観点から、レジストリとレジストラを分離し、同時所有 (co-ownership) は認められない、という決議が今回のナイロビ会議で開催された理事会でなされました。

同時に、現行の分離ポリシーを変更した場合の影響などを研究するため、GNSOでVIIについてのWGが設立されています。



■ Jacob Williams氏には、GNSO評議会についてご報告いただきました。

◆新gTLDにおけるRights Protection Mechanisms

株式会社プライツコンサルティングのHelen Kenyon (ヘレン・ケニヨン) 氏より、新gTLDにおける商標権保護メカニズム (Rights Protection Mechanisms; RPM) についてお話しいただきました。

RPMが、

- ・登録開始前に利用されることになる商標データベースである Trademark Clearinghouse
 - ・登録開始後に利用されることになる、商標権侵害時の迅速な対応手段であるUniform Rapid Suspension (URS)
 - ・TLD利用開始後に利用されることになる、レジストリに対する異議申し立て手段であるPost Delegation Dispute Resolution Procedure (PDDRP)
- の3点からなることはこれまでと変わりありませんが、それぞれの詳細についてご説明いただきました。

◆.xxxの復活?

JPNICの前村昌紀より、以前2003年のgTLD追加第2ラウンドで応募があった、アダルトコンテンツ用TLDである.xxxの動きについて報告いたしました。ICM Registry社が応募事業者である同TLDは、2007年には理事会で応募が却下されたものの、ICM社はその後ICANNが定めた紛争解決プロセスである独立審査パネル (Independent Review Panel; IRP) に提訴し、IRPはICM側の主張を認める裁定を下しました。これはすなわち、.xxxの応募を承認すべきであるという勧告がICANNに対してなされたということです。



■ 会場の様子

本報告会の発表資料および動画をJPNIC Webサイトで公開しています。ぜひそちらもご覧ください。

<http://www.nic.ad.jp/ja/materials/icann-report/index.html>

◆おわりに

～ アフリカの地における、ICANNミーティングが持つ意義 ～

今回のICANN会議は、アフリカ開催だからということか、現地の業界や参加者とICANNの主要メンバーとの交流が図られるイベントが目につきました。ケニアICT協会とICANN理事・出席者との交流ディナーがアレンジされたり、GNSO恒例の朝食会合に現地業界団体の代表が参加したりしていました。

ICANNでの話題は、まだまだドメイン名に関するものが多く、網羅的とは言いきれないかもしれませんが、全世界からインターネット関係者がアフリカ地域に定期的に集まるという意味において、アフリカにとって、ある種、唯一無二な会合であることは確かです。ICANNの主要メンバーが、アフリカのインターネット振興に関しても積極的に取り組んでいる姿が印象的でした。

次回ICANN会議は、2010年6月20日から25日まで、ベルギーのブリュッセルで開催されます。

(JPNIC インターネット推進部 前村昌紀/山崎信)